

令和7年度第4回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	令和7年10月8日（水） 午後3時00分～午後5時00分
開催場所	滝川市役所6階 601・602会議室
出席状況	<p>【委員】</p> <p>出席：高瀬委員長、長澤副委員長、板谷委員、大崎委員、松田委員</p> <p>欠席：金子委員、山西委員</p> <p>【事務局】</p> <p>くらし支援課 田上課長、種田課長補佐、米内係長、目黒主任級主事、岡村事務補</p>
議事内容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項 評価シート修正表について【資料1】 ※事務局より「評価シート修正表」について報告</p> <p>3 協議事項 ①滝川市の環境施策に関する評価報告及び報告書(案)について【資料2】 ※事務局より【資料2】について説明 ※委員より【資料2】について意見 委員：2ページ目の「2 令和6年度までの取組に関する評価について」環境学習リーダーAdvanceのスペルが間違っているのを、修正していただきたい。 事務局：該当箇所を修正します。 ※委員へ10月20日を期限に意見等を依頼</p> <p>協議事項 ②第3次滝川市環境基本計画について 第3次滝川市環境基本計画ワークショップ前の参考としての前回の振返りの資料説明について【資料3】【資料4】 ※事務局より【資料3】【資料4】について説明 第3次滝川市環境基本計画ワークショップ【資料5】 ※事務局より【資料5】について説明 前段で説明した資料を参考とした上で、目標・テーマを決めるためのアプローチとして、ワークショップ方式で行うことを説明。委員5名を2グループに分け、①滝川市の現状と課題（滝川市の環境で、困っている、不便に思っている、力を入れた方がよいことなど、滝川市には何が足りていないのか）、②滝川市のあるべき姿・めざす姿（滝川市がどうなってほしいのか）について意見を出し合ってもらふこととする。</p> <p>Aグループ協議内容</p> <p>①滝川市の現状と課題 【地球環境（地球全体の問題）】 ・日常生活と温暖化対策の結びつき何をしたら良い？ →日常生活の中での小さな取組が、将来的に全体的な地球温暖化に繋がる。 【自然環境・農業（自然・農業の保全）】 ・農業体験の機会拡大、市の施策・取組 →農家とタイアップして、一部の小学校でやっているように稲作をやってみたら良い。水田パークのようなもので定期的に稲作体験ができれば面白い、市が農家をバックアップをして、学校単位で良いので体験補助のようなものをしてもらふ素敵ではないか。 ・学校給食では地産地消にとっても取り組んでいる →リンゴやアスパラガス、菜花など地元の農家と連携し、育てている様子のビデオを作成しお昼に流している。給食便りを通して、子どもがいる一般家庭に対して、食べているものの状況が分かるようになっている。 ・緑化・緑豊かな街づくりの推進 →街路樹について緑化の面で素敵だという人もいれば、交通標識が見えにく</p>

	<p>くなくて邪魔という人もいる。京都議定書で緑化を推進しているわけなので、まちづくりの方向性として、しっかりした道路には緑化・緑樹するべきということを示した方が良い。気持ちとしては、以前に街路樹があったところには街路樹を復活してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街路樹緑化計画を市民にも分かるように！ →昔は市の方針として、新たな木を植えたり、街路樹の緑化を進めていたが、方針が変わったのか、街路樹の伐採が進んでいる。樹木の寿命や、生えている場所の地下にある埋設物を入れ替えるために伐採は必要になることはわかるが、市として街路樹の維持や緑化の方向性についてどのように考えているのかわからないので示してほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境施策の滝川市の色・特色が見えない →環境施策の特色として、石狩市では洋上風力発電、当別町ではゼロカーボンというものがあるが、滝川市にはこれといったものがない。 <p>②滝川市のあるべき姿・めざす姿</p> <p>【生活環境（身近な問題）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が自然とリサイクルを意識する、行動する →リサイクルはごみの分別で強制的に対応できているので、だいぶ達成されていると思うが、リサイクル率の向上で言えば、まだまだ弱いので、強く推していかないといけない。違う視点・視線を含めて、もっと市民がリサイクルに取り組める姿が必要ではないか。 ・ストレスの少ないごみ分別と処理 →前回のワークショップでは、ペットボトルの出し方や、違うサイズのごみ袋の話があり、ポイ捨てや不法投棄が減らないという話もある。ペットボトルを潰して出したい、小さいごみ袋を導入してほしい、少ないごみだけしか入っていないごみ袋を捨てるのがもったいないと考える人もいるので、そういったストレスや抱えている市の問題を減らしていけば、自宅でのごみの分別や処理をしてくれる人が増えていくのではないか。 ・マイハシ・マイスプーン・マイフォーク →割り箸は突き詰めれば森林である。割り箸は使わないように使い回せるものを使用すべき。 <p>【地球環境（地球全体の問題）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化対策をしないとどうなる →温暖化対策をしないとどうなるのかシンプルにアピールすると良い。 ・温暖化の話題をPRする →温暖化という言葉が当たり前になってしまっている。温暖化とは何かをもっとシンプルにアピールする。 ・太陽光発電（日照時間 1,544 h、道内 26 位/35 位） →川はあるが、水力発電は行えないので、太陽光発電を進めてはどうか。 →太陽光発電設備を作るための広い土地がなく、作ってしまうと自然を壊してしまう。また、滝川市の日照時間を調べると、道内 35 位中の 26 位であり積雪量も多いことから、太陽光発電を進めることは難しい。 ・地球環境の問題をもっと身近に（周知・講座等） →ワークショップの中で、現状と課題が出てきていないテーマであることから、身近にできることの情報発信が全然足りないのではないか。国のキーワードでも知らないワードがたくさん出てきているので、ワードの周知だったり、すぐに自分達が行えること（プラごみの削減など）小さいことで良いので、どう地球環境の問題につながっていくのかをもう少し周知や市単位でできる範囲でやっていけば良い。 ・ハイブリッド・EV・ガソリン車に対して環境メリットは？ →普段何気なく使っているだけで、ハイブリッド・EV 車はガソリン車に対してどういったメリットがあるのかわからない。燃料費だけの問題ではなく、環境面ではどうなのか、ガソリン車とどう違うのか、示した方が良い。 ・温暖化対策の行動がもっと日常生活と密接に →温暖化対策は大きな話になってしまうので、日頃の生活と温暖化対策が結び付いていないのではないか。そういったところをもっと身近にするような簡単な取組を行うことができれば、市民も温暖化に少し目を向けて行動をとってもらえるのではないか。
--	---

・EARTH HOUR in Takikawa

→WWF が主催している EARTH HOUR というのがあり、電気を消して地球のための 1 時間を過ごしましょうというもの。ランタンフェスティバルと関連させてやっても良いのではないかと、「家の電気を 1 時間消して、ランタンを見に行きましょう」ということをやったら面白い。

【自然環境・農業（自然・農業の保全）】

・学校単位稲作

→学校に圃場を作り、田植から収穫までの一連のサイクルを体験してもらうことで、地産地消から自然との触れ合いまですることが出来る。子どもがやると親世代が動き出し、将来的には農業人口が増えてくる。農家が自分が持っている農地を若手の農業経営者に貸して、休んでいる人がいる。体力的に厳しくても知識が豊富なので、そういった方達にお手伝いをお願いするといったことができるのではないかと。

・川への理解を促す

→滝川の強みは川である。川への理解を促すことはできないか。川のクリーン活用を考えれば良い。

・皆が望む街路樹や公園・緑地の設定・共有

→管理が大変なこともあり、全員が喜ぶことはまずないと思うが、どういったものがいいのか、どういった状態にあることが望ましいのかと、もう少しみんなや市が目指している姿がどういう姿なのか見えてくるようにしたり、発信したりできれば、みんなが望む姿に近づけるのではないかと。

・各世代にあった自然の学習・体験を！

→大人になると街路樹が汚いなど、そういったところが目についてくる。小さい子どもや学生が木を植える体験などをすると自然学習に繋がる。自分が小学生や幼稚園児のときに、木を植える体験をしたことがあり、そういった体験が、時間が経ったときに景色などの発展につながるはず。田植体験も重要とは思いますが、市の外観をよくするためにも、小さい学生の力を借りて、体験をさせていけば、将来的にも景色的にも良くなる。

・植樹・緑の少年団の見直し

→20 年くらい前に、滝川市では市民植樹祭をやっていた。西滝川や江部乙の山奥、北海道の森など植樹するエリアを決めて、いろいろな団体や子ども達を呼んでやっていた。また、緑の少年団というものもあり、緑の募金の益金を活動資金にしていた。小学生が、林業試験場のイベントや市民植樹祭に参加したり、市の貸し出している畑を借りて野菜を育てたり、登山などをしていたので、そういった活動を今の時代に見直してみてもどうか。

・6 割が森林や農地

→林業がないと難しいが、伐採した木を利用したチップボイラーなどはないだろうか。

・利雪

→沼田町や美唄市のように雪を利用できないか。滝川市も雪が多いので、雪を残しておいて冷風に使えないだろうか。

【環境コミュニティ（人のつながり）】

・いろいろな方が取り組む様々な活動の発信

→野鳥の観察会や、川の科学館での川下り体験など、知らない人が多いのではないかと。もし、知ればやってみたいと思う人がいるかもしれない。市がフォローしてもっと情報発信をしたり、広報たきかわで取り上げたりして、もっと拡充したりできないか。また、活動している団体とコミュニケーションをとって連携している活動が増えたりできれば良い。

・WaiWai フェスタ大盛況、長く続く環境イベント

→6 年ぶりの開催だったが 2,000 人を超える人が来た。普段、発表する場やイベントがないため、ジュニアバンドなどの子ども達もたくさん来ていた。そういった環境のイベントを定期的に開催できれば人も集まって良いのではないかと。

【その他】

・市が重点とする、特色ある施策と発信

→滝川市がどういったことを重点的にやっているのか。それがあると市民に見てもらいやすい。そういったものを設定していければ良い。

・エコたきを push! 例) エコたき教室

→エコたきを知らない人が多いのではないかと。すごく分かりやすく 4 つにまとめられているので、学年を決めてエコたき教室を開き、生徒に学んでもらえれば、少しずつ意識されていくのではないかと。



現状と課題		あるべき姿・めざす姿	
<p>「ゼロ」を目指す PR推進</p> <p>生活の中で 分別して 資源の活用</p> <p>市民のなか にも、分別が できない人々</p> <p>資源処理 の負担を 減らす</p> <p>リスト 不法投棄 が1減る</p>	<p>分別 リサイクル の推進</p> <p>分別 リサイクル の推進</p> <p>分別 リサイクル の推進</p> <p>分別 リサイクル の推進</p> <p>分別 リサイクル の推進</p>	<p>市民が自然 リサイクルを 推進する</p> <p>ストレスの少ない 分別と処理</p> <p>マイ・ハズ システム の導入</p>	<p>市民が自然 リサイクルを 推進する</p> <p>ストレスの少ない 分別と処理</p> <p>マイ・ハズ システム の導入</p>
<p>再エネ活用 を目指す 具体的な 施策の検討</p> <p>自然や重機 の活用 機会の創出</p> <p>街路 樹の 管理</p> <p>環境 フェア の開催</p> <p>子どもと 地域の 関係性 (生活環境)</p>	<p>自然や重機 の活用 機会の創出</p> <p>街路 樹の 管理</p> <p>環境 フェア の開催</p> <p>子どもと 地域の 関係性 (生活環境)</p>	<p>温暖化対策 をいかに 推進する</p> <p>温暖化の 課題を PRする</p> <p>太陽光 発電 日照時間 1544h 年間26倍</p> <p>学校単位 での 推進</p> <p>色んな方が 取り組む 林の活動 の発信!! Wa-Wa-Fest 大盛況 長らくイベント 実施</p>	<p>温暖化対策 をいかに 推進する</p> <p>温暖化の 課題を PRする</p> <p>太陽光 発電 日照時間 1544h 年間26倍</p> <p>学校単位 での 推進</p> <p>色んな方が 取り組む 林の活動 の発信!! Wa-Wa-Fest 大盛況 長らくイベント 実施</p>
<p>自然や重機 の活用 機会の創出</p> <p>街路 樹の 管理</p> <p>環境 フェア の開催</p> <p>子どもと 地域の 関係性 (生活環境)</p>	<p>自然や重機 の活用 機会の創出</p> <p>街路 樹の 管理</p> <p>環境 フェア の開催</p> <p>子どもと 地域の 関係性 (生活環境)</p>	<p>温暖化対策 をいかに 推進する</p> <p>温暖化の 課題を PRする</p> <p>太陽光 発電 日照時間 1544h 年間26倍</p> <p>学校単位 での 推進</p> <p>色んな方が 取り組む 林の活動 の発信!! Wa-Wa-Fest 大盛況 長らくイベント 実施</p>	<p>温暖化対策 をいかに 推進する</p> <p>温暖化の 課題を PRする</p> <p>太陽光 発電 日照時間 1544h 年間26倍</p> <p>学校単位 での 推進</p> <p>色んな方が 取り組む 林の活動 の発信!! Wa-Wa-Fest 大盛況 長らくイベント 実施</p>
<p>自然や重機 の活用 機会の創出</p> <p>街路 樹の 管理</p> <p>環境 フェア の開催</p> <p>子どもと 地域の 関係性 (生活環境)</p>	<p>自然や重機 の活用 機会の創出</p> <p>街路 樹の 管理</p> <p>環境 フェア の開催</p> <p>子どもと 地域の 関係性 (生活環境)</p>	<p>温暖化対策 をいかに 推進する</p> <p>温暖化の 課題を PRする</p> <p>太陽光 発電 日照時間 1544h 年間26倍</p> <p>学校単位 での 推進</p> <p>色んな方が 取り組む 林の活動 の発信!! Wa-Wa-Fest 大盛況 長らくイベント 実施</p>	<p>温暖化対策 をいかに 推進する</p> <p>温暖化の 課題を PRする</p> <p>太陽光 発電 日照時間 1544h 年間26倍</p> <p>学校単位 での 推進</p> <p>色んな方が 取り組む 林の活動 の発信!! Wa-Wa-Fest 大盛況 長らくイベント 実施</p>

B グループ協議内容

① 滝川市の現状と課題

【生活環境（身近な問題）】

- ・リサイクルの仕組がない（少ない）
→リサイクルショップを増やせば良いというわけではなく、滝川市にあったリサイクルの仕組を考える必要がある。不用品データバンクから、ジモティーやメルカリなど新しいツールを活用できるようになれば解決できるものもある。

【自然環境・農業（自然・農業の保全）】

- ・（自然環境）自然、農業を学ばせるための人、講師が少ない
→空や星、川、ヒグマ、グライダーなどを教える講師や個人の方がいれば、滝川と江部乙のことをもっと知ってもらえる。
- ・川のゴミの活用（補足：川の漂流物の活用）
→川がきれいだと自分が住んでいるまちが好きになる。川のごみ拾いは大変だが、こんな面白いごみを拾ったという人や、漂着物の加工したアクセサリを作っている人がいる。川がきれいになることには直接つながらないが、ごみに対して意識が向くようになる。漂着物でアクセサリを作るワークショップを開催すれば、参加した子ども達が大人になったときにごみを捨てなくなるはず。
- ・石狩川が、空知川がもっとおいしい水に（補足：上下水道の意識が大切）
→世界的にみたらおいしいのに水道水を飲む人が少ない。場所・地域によって水のおいしさが変わってくる。滝川市の水道水がもっとおいしい水になれば、もっと飲んでもらえるのではないかな。また、上下水道の意識を高める必要がある。油汚れを水で流すだけでも、フィルター交換など下水処理が大変になる。誰かの下水が、自分達の上水になっていることを意識して行動した方が良い。
- ・空と田園の風景の活用（補足：お金をかけてもできないものが観光になる）
→資源が活用されていない。道外から来た人間にとって北海道の景色はいつまで経っても感動する。北海道で生まれ育った人間には当たり前でわからない、価値があるのに十分に活用しきれていないのがもったいない。何もないことに価値を見いだす人もいるので、外から見る視点を持たないといけない。お金をかければ良い物が何でもできる、お金をかけてもできないものはその場にあるもの。今あるものをいじらないで自然をいかにアピールするかが田舎の資源、観光につながる。

【環境コミュニティ（人のつながり）】

- ・菜の花祭りの時、農家さんと市の関係が悪い？
→生活のために菜の花を育てている農家と観光面で利用している市との関係が悪いのではないかな。

② 滝川市のあるべき姿・めざす姿

【生活環境（身近な問題）】

- ・ゴミ分別リサイクル仕組
→ごみとなるものでも、価値があるものもある。誰に対して価値を認めてもらうか、価値を認める人が近くにいないければごみとなってしまうので、引き合わせるような仕組があれば良い。
- ・ただ捨てるゴミ箱じゃなくて、さっきのお話のゴミ箱の上にバスケットゴールを設置するなんて最高
→ナッジとして、ゴミ箱の上にバスケットゴールを設置して、そこにごみを入れたくなるようにするという、相手の行動に変化を促す考えは良い。
- ・マイボトル普及
→ペットボトルは便利だが、マイボトルを普及した方が良い。
- ・リサイクル知恵共有する場
→人それぞれにリサイクルに関する知恵があるが、その知恵を共有する場がない。一人でリサイクルをやっている人がいたとして、その知恵が一人で収束してしまうのはもったいない。
- ・（環境）市民の意識が高い
- ・市民が地域を誇りに思う文化
→滝川市は環境の意識が高いと言われるようになり、住んでいる人が自慢に思えるようになることが理想である。

【地球環境（地球全体の問題）】

- ・公共に電気ステーション
→公共施設に電気ステーションが少ないので、増やした方が良い。

【自然環境・農業（自然・農業の保全）】

- ・環境ガイドの育成
→観光のガイドが少ない。滝川と江部乙のことを知ってもらうためにも環境について話せるガイドを育成したらどうだろうか。
- ・リサイクルで学習会
→学習の機会が少ない、リサイクルの施設見学などは最近活用されていないので、学習の機会として活用できれば良い。
- ・地域の自然を活用したアクティビティが盛ん
→地域の自然を活用したアクティビティがあると良い。川の科学館での川下りや渡り鳥観察などのアクティビティはあるがもっと盛んになると良い。
- ・川の活用 具体的 B&G
→川の活用を考えたい、川とふれあう機会として B&G を利用すれば良い。滝川市の B&G の利用は日本で 2 番目に多く、通年ではない施設での利用としては 1 番目に多い。滝川市の B&G の評価は高いので活用できるのではないかな。

※補足：外からの視点が必要

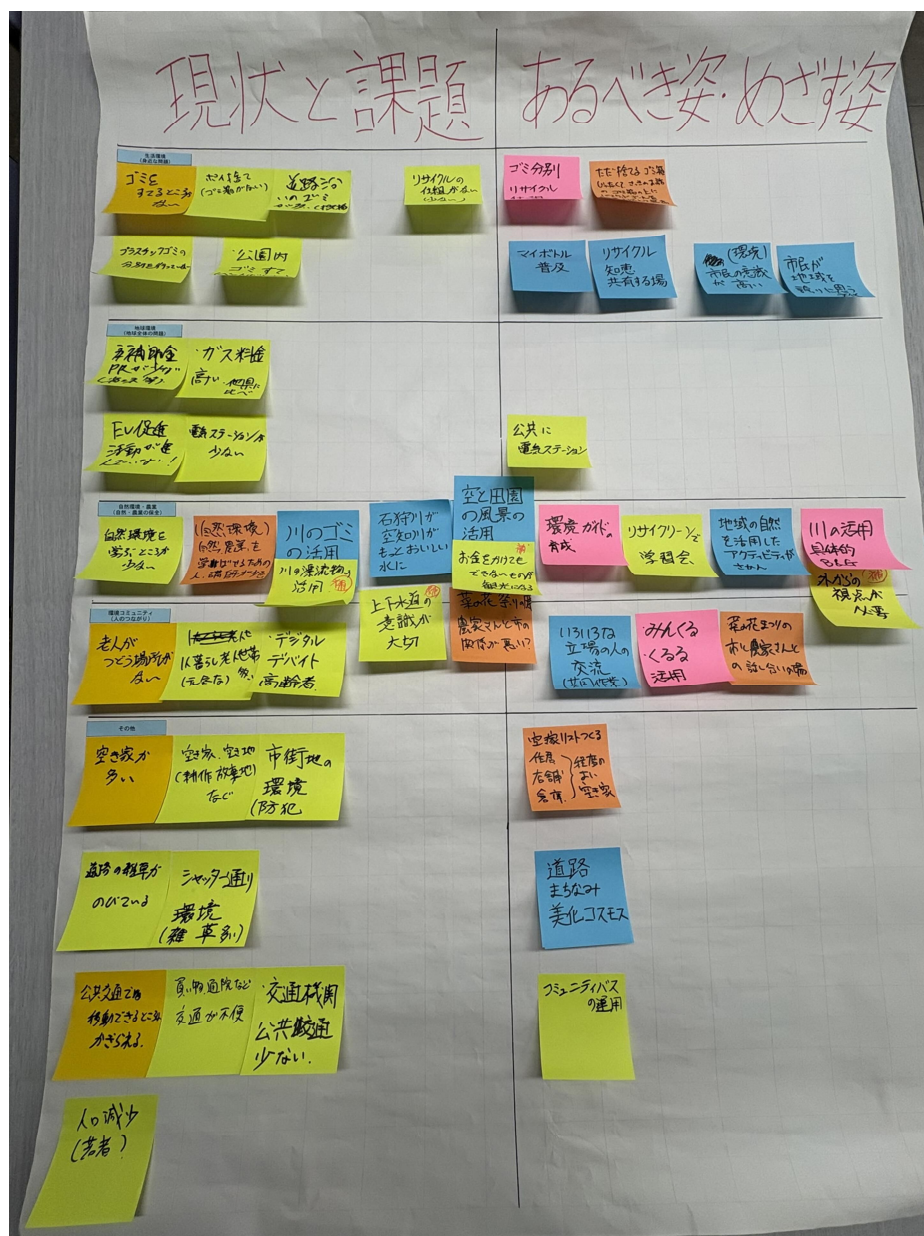
【環境コミュニティ（人のつながり）】

- ・いろいろな立場の人の交流（共同作業）
- ・みんくる・くるる活用
→いろいろな立場の人がいろいろな考えの下で何かを行うということが必要ではないか。高校生がいる、みんくるやくるるを活用できないだろうか。
- ・菜の花まつりの市と農家さんとの話し合いの場
→農家さんにとっては生活のために菜の花を育てているので、観光を取り入れるのにしても話し合いが必要ではないか。

【その他】

- ・空き家リストつくる 住居・店舗・倉庫} 程度の良い空き家
→空き家のリストは上手に作っていきたい。
- ・道路 まちなみ 美化コスモス
→昔、滝川市の事業でコスモスの種を植えていたし、コスモスまつりをやっていた。コスモスにこだわるわけではないが、シャッター街の街並みでも道路に咲いた花で、のどかなきれいなまちになると良い。
- ・コミュニティバスの運用
→公共交通の面で、コミュニティバスの運用ができれば、個別の車を利用する人が減るので CO2 の削減につながる。





※今回のワークショップの内容について、次回までに事務局でまとめさせていただきます。

4 その他

次回の開催日程について

11月上旬に開催を予定している。詳細は後日調整し、確定したものを皆様にご連絡したい。

5 閉会